

日本平和学会 2015 年度春季研究大会

戦争の記憶と国際刑事裁判：東京裁判が残したもの 法政大学・二村まどか

はじめに

現在の国際刑事裁判に期待される真実追求、紛争・戦争の記録作成、集団の記憶の醸成
東京裁判はこの様な役割を果たしたのか

1. 国際刑事(戦争犯罪)裁判の役割

ニュルンベルク・東京裁判 = 「戦争の最後の行いであり、平和の最初の行い」
戦争から平和への移行を助け、戦争(紛争)後の平和な社会の構築に貢献するとの期待

裁判はどのように平和構築に貢献する(と期待される)のか

戦争の抑止、被害者救済、セラピー効果、集団責任追求の回避、和解、真実の追求と
戦争(紛争)の記録、将来の修正主義に対抗できる集団の記憶の醸成 etc

ニュルンベルク：裁判の教育的効果に対する評価（と是非）

→ 現在の国際刑事裁判：裁判を通じた記録の作成と記憶の醸成の試み

Q. 日本人の戦争の記憶・理解における東京裁判の役割とは？

2. 東京裁判と判決

1) 東京裁判

1928 年から 1945 年までの日本の政策の詳細な審理

判決：侵略戦争の計画・準備・開始、軍部による「平和に対する罪」の共同謀議、
戦争犯罪

*裁かれたものと裁かれなかったもの

2) 当時の社会へのインパクト

① 審理の過程で明らかになった戦争と戦争犯罪の実態

国民に大きなインパクト、軍部指導者たちへの不信感、怒り

- ② 判決の提示した戦争像
消極的な受け入れ（当時の国民意識と合致？）
- ③ 集められた膨大な資料→ のちの歴史研究へ貢献

3. 「東京裁判史観」をめぐる論争

1) 東京裁判判決に対する反発（←被告側弁論）

- ① 日本の戦争の本質について
判決国際法に反する侵略戦争 → 「欧米に対する自衛戦争／アジア解放戦争」
- ② 日本の戦争犯罪について
判決南京大虐殺と「20万人」の犠牲者 → 「東京裁判による『フィクション』」
- ③ 「勝者の裁き」に対する反発、判決の正当性への懷疑
 事後法を用いた一方的裁判 → 「判決は勝者による歴史的解釈」

2) 1990年代の歴史観論争・教科書問題

背景：冷戦と「昭和」の終わり → 国内外で戦争責任を問い直す動き
 e.g. 河野談話、村山談話 + 日本国民の支持

- ⇒ 日本人の戦争に対する態度や意識は「自虐史観」によるという保守からの反発
 「日本は侵略戦争を実行し、残虐な戦争犯罪を行った」
 勝者によって東京裁判を通して押し付けられた歴史観＝「東京裁判史観」
- ⇒ 自由主義史観論争、歴史教科書論争と「つくる会」
 東京裁判は日本人の自虐的態度の源泉として批判される

ネオナショナリズムの台頭と国民の戦争観

4. 東京裁判の記録と記憶

日本人の戦争観＝「東京裁判史観」しかし...

1) 東京裁判への無関心

- ① 無知
 - ・「詳しく知らない」（70%、朝日新聞 2006年5月）
 - ・実像とは異なるイメージ
 → 詳細を知ること、東京裁判への反発が増すのではという懸念と期待
- ② シニシズム
 - 「勝者の裁き」→ 裁判の消極的受入れ→ 裁判の教育的効果の軽減
 - パール判事の記憶一積年の不公平感

2) 「タブー」としての東京裁判

- ・東京裁判の掘り下げ → 1. 国民全体の戦争責任、2. 裁かれなかったものの再検証
- ・東京裁判と歴史観の密接 → 両者を分けて議論・評価することが困難
→ 論争的・政治的テーマ、妥協点が探りにくい

3) アンビバレントな教育的効果

- ・反軍事主義、反戦思想の象徴
- ・外からの「戦後処理」(決着) → 日本人自身の戦争責任検証の機会を奪う
自分たちで審判を下さないことの正当化と不満
→ 日本人の戦争と戦争犯罪に対する理解を促進せず、長期的には負の教育効果?
- ・東京裁判と歴史観論争

おわりに

主要参考文献

栗屋憲太郎『東京裁判への道 上・下』(講談社、2006).

戸谷由麻「教材としての東京裁判——真珠湾とのつながりを中心に」矢口祐人、森茂岳雄、中山京子編『真珠湾を語る—歴史・記憶・教育』(東京大学出版、2011).

日暮吉延「東京裁判と日本の対応—『国家』と『個人』」軍事史学第44巻第3号.

二村まどか「東京裁判の社会的インパクト」田中利幸、ティム・マコーマック、ゲリー・シンプソン編著『再論東京裁判—何を裁き、何を裁かなかったのか』(大月書店、2013).

Lawrence Douglas, *The Memory of Judgment: Making Law and History in the Trials of the Holocaust* (Yale University Press, 2005).

Madoka Futamura, *War Crimes Tribunals and Transitional Justice: The Tokyo Trial and the Nuremberg Legacy* (Routledge, 2008).

Gerry J. Simpson, *Law, War and Crime: War Crimes, Trials and the Reinvention of International Law* (Polity, 2007).

他